

つきだてのお餅はおいしいね!!

12月22日は、ホ号棟では久しぶりの「もちつき大会」の日。

この日は、未だ朝も明けやらぬ7時前から、スタッフが集まって餅つきの準備にはいる。

もち米を炊く人、会場づくりをする人、提供する5種類の具を容器に準備する人・・・男衆、女衆合わせて30人は下らない。

当日提供される搗き立てのお餅は、「あんこ、きなこ、からみ、おかかのり」と、急遽作るようになったお雑煮の5種類。

次々と受付を済ませ、期待に顔を高潮させている子どもたちは、「試しづき」のお餅をオープン前に頬張る。

「うめ～、な・・・」

子どもたちは、当初予定していた量では足りる訳がない。

「早く正式につき始めてよ～」と声にならない声を顔に浮かべて、臼の周りに移動する。

開始の10時には、もう一杯の参加者で会場が埋まる。

途中雨が降り出して、集会場前の机席を濡らすのが、瞬時の判断でスタッフが動員されて、あっという間にブルーシートの屋根が出来上がる。防災訓練や芋煮会などでシートを活用している強みが、ここでも生きてくる。

ごった返す会場の盛況の中に、次々と差し入れが届く。

温かいかす汁、かつお一本、酒、お新香・・・、そして多額のカンパまで。

「鉄は熱いうちに打て」という言葉は、ここでは「餅はあついうちに食え」と変化する。

参加者の食欲の前で戦場と化していた会場でも、終盤に近くなってくると余裕が出て、子どもたちの餅つきが始まる。

「バシッ、バシッ」と大人がついた後に、かわるがわる杵を持ちよろけながら「ペッタン、ペッタン」と、介添えのおじさんたちの力も借りて自分の餅をつく。

当日の参加者は、小学生以上の有料入場者数が157名。

幼児などが30名、計180名を超え、雨模様で寒い空気を熱気で跳ね返した。

スタッフの疲れも吹っ飛ばすような盛況の「ホ号棟もちつき大会」を支えてくれたのは、多摩川住宅のイベントではおなじみで、特に「餅つき」ではその一切を指導してくれた、鈴木さんを中心とした「まさるの会」の方々。

当日7時には会場で準備を指導してくださいました。ありがとうございました。ホ号棟のスタッフも今回「まさるの会」の動きを学習し、自分たちなりに総括をしたので、みなさんの希望が強ければ今年も実施することは、充分可能です。



おいしいお餅・・・ごちそうさまでした!!